育てる喜び、育む幸せ。
南幌町
TOWN NANPORO

人とまち、公園を「育てる」
交流拠点

SMILETTER
スマイレター

発行：まちづくり課
企画情報G

Vol.01

交流拠点施設とまちづくりシンポジウムを開催！

10/18（日）

子育て世代やまちづくりに関心を寄せる方々など約80名が集い、活発な意見が交わされました。

2022年のオープンを目指し、昨年度から構想をスタートさせた誘客交流拠点施設。子どもたちがいつでも安心して遊べる場、地域の住民が気軽に利用できる憩いの場、町内外からたくさんの人が訪れる賑わいの場を創出するため、地方創生の取組みとして魅力あふれる施設整備が進められます。

本事業で、施設概要以外に特徴的であるのが、施設整備と開業後の施設運営に関して、公民連携（ＰＰＰ）の手法であるＤＢＯ方式を採用している点。ＤＢＯ方式は、施設の設計(Design)・建設(Build)・維持管理運営(Operate)の各業務を一括して事業契約する手法であり、さらに本件においては施設を中心としたエリア全体の新たな価値を創出していくための「エリアマネジメント(※1)」についても業務項目に含みます。シンポジウム冒頭、町よりこれらに関して説明を行い、民間事業者と連携することで専門的なノウハウとアイディアが最大限に活用されることを紹介しました。また、代表企業である大和リース(株)より施設のコンセプトや概要等の詳細について説明が行われました。

(※1)…エリアマネジメントとは、エリアの新たな価値を創出するために、地域住民や地域の団体・町・民間事業者が主体となって、まちづくりや地域経営を積極的に行う取り組みを指します。本施設は、地域の魅力について町民とともに考え、賑わいづくりを進めるための「エリアマネジメントの拠点施設」として位置付けます。

シンポジウム後半には、４名のパネリストを迎え、「交流拠点とまちづくり」をテーマにパネルディスカッションを行いました。質疑の場面では、「財政的に大丈夫なのか」「いつ決まったのか不透明」といった質問がありました。町からは、国からの交付金を財源とし長期的な財政推計を基に整備を進める旨、また構想段階から広報なんぽろ等での周知や地域団体や関係機関との意見交換会、子育て世代へのヒアリング、アンケートを実施し、昨年度末に議会の同意を得て実施を決定した旨を回答しています。その他に、「この取組みが町民にとっての“学び”のきっかけとなることを期待したい」といった意見もありました。

パネリストの発言内容＆第１回ワークショップの開催について裏面でお知らせしています。